近況報告～　もしもの時にどうすれば良いかを知らせる、国の責任　4／12

「あらゆる危険から身をまもる～民間防衛」という本を読んでいます。
スイス政府が、全国民に向けて発行している、
さまざまな危機…
各種の災害、テロ、核攻撃、戦争…に遭遇した時のために、民間人が
どのように対処すれば良いかを示したものといいます。

国情の違いはありましょうが、個々人がいかに対応できるのか、
心的にも物的にも、備えができるのか、ごく具体的に書かれています。
放射能の被害についても、むろん触れられており、
地下避難施設のつくりや、避難所には2年分の食料備蓄用意など、
また、瓦礫の下から、被災者を救いだす要領、火災の場合のそれ、
怪我人への救急救命の記載もあります。

編者は、スイス警察で、国内全戸に配布しているそうです。
国民の安全を守る、国の責任として、あらゆる危険の可能性を認め、
そのための情報、対処するための知識を
あらかじめ国民に知らせるためといいます。
いたずらに右往左往させないための判断でもあるのでしょう。
また、国家とても、
どこまでも、国民ひとりひとりまで欠かさず、守りきれるものではない
ということでもありましょう。私は、その点については正しいと思います。
福島原発の収束には、相当に時間がかかることがハッキリしてきました。
翻って、わが国では、
やらなければならない「もしもの時の備え」が
「もしもの時なんてない」んだから、
「備えをすること自体があってはならない」呪縛に
とりつかれていたようです。

またしても、「戦前みたい！」と感じるのは私だけでしょうか！？
最先端科学の世界のはずなのに、
これほど合理性を欠く「危機管理意識」は信じがたいことです。
余震で、他の原発でも非常電源が危ういことがはっきりしました。

改善＝「過去のあり方を否定すること」ではありません。
さまざまなことについて、私たちも、速やかに見直しをしなければなりますまい。

「民間防衛」は、このところ、新聞各紙にも紹介され、原書房から出版されています。
この本をどう読むかは、充分に吟味も必要と思いますが、
まずは参考にしたいと思いつつ、読んでいます。